

北海道小樽市の大樹さん

特別住民番号169

僕の名前は“たいき”平成5年9月26日生まれ。今、幼稚園年長だよ。
おなかの中は埼玉で過ごし、お父さんの転勤で函館に引越し、生まれたのはお母さんの古里の留萌なんだって。函館にいた頃には南西沖地震があつて、家もだいぶ揺れたんだって。僕は覚えていないなあー。



お母さんに生まれた日の事を聞いたよ。2日間ずっとおなかが痛くてとても苦しかったんだって。そして風の強い雨の日の夜にやっとの思いで、生まれて来たんだって。第一印象はなんと“ガッツ石松”だったさ。

仕事の都合でお父さんには2週間近くたってから、やっと会えたんだ。だから届けを出すのにギリギリで名前を決めたんだって。

生まれる1ヶ月前から、お父さんは函館、お母さんは留萌で生活していたから、電話で名前を相談していたらしいよ。お父さんは海という字がつく名前がいいと思ったけれど、知合にいたので、ダメだなーとか、親の字を一字とってつけようかなーとか、いろいろ考えてくれたみたい。

結局、僕の第一印象で、モダンな名前よりも、自然な感じがして、大きくすくすく育つようにと大樹という字になったんだって。だいきとたいき。さてどちらの読み方にしようかとまた悩んで、濁点のない、濁らない“たいき”という読み方に決定。名前を決めるって、結構大変なんだ！

さて僕といえば、今のところ体だけは大きいよ。今流行りの3兄弟の長男だから、もう少ししっかりしなさいと、お母さんは言うけど…。とりあえず、大好きなスイカ、アイス、お菓子食べて、名前みたいにもっともっとでっかくなるぞー。

「こらーっ。たいきー」

また怒られちゃった。

北海道江別市の大樹さん

特別住民番号203

この樹 何の木……の歌のイメージでつけた名前です。

北海道の人間なら「たいき」と読んでくれると思ったのですが、「だいき君？」と言われる事が多く残念です。

全国に大樹町の名が広がれば、「たいき君」と言われるかもしれないので、特産品等でがんばってください。(母)



北海道釧路市の大樹さん

特別住民番号208

父が書いた詩の中から命名されました。

「大樹とてそもそもは二葉なり

微風にも揺れたり



霧にもかすみたり
なれど一
日々に屈せず天を仰ぎて陽に向い
幾千時をも経し故の現在なれば
枝は繁りて実も熟れる
嗚呼汝よ
二葉を嘲笑することなかれ
その身を嘆くことなかれ
陽はいつも天にあり」

父の詩集より

北海道北陰山町の大樹さん

特別住民番号211

私達の息子、大樹は平成1年 3月23日 午前3時58分
北檜山町の母子センターにて、3800gで、元気なうぶ声を挙げて、まわりは山
や海、そして大きな田園に囲まれた、農家の長男として我家に生まれて来まし
た。



自然の緑に恵まれた中で、新鮮な森からのおいしい空気と緑の中、息子に
も、こんな伸び伸びと大きく、胸いっぱい顔を空に向けている森のように、大き
な樹に育てという意味を込めて、いつまでも素直で、森のように大きな、気持ちと、やさ
しい心、笑顔がたえない、樹のように、たくましい子に育て、ほしいと思い、また、森
という名字にちなんで、大樹と命名しました。

現在、小学5年生、北檜山サッカー少年団に入って、サッカーをやっています。サッカ
ーの練習にガンバッテいる毎日です。(母)

北海道小樽市の大樹さん

特別住民番号212

平成3年4月5日生まれ 8歳

この子が私のお腹に入った時、つわりもひどく、出血もあり、先生に
は、「自然にダメな時は、あきらめましょう」そう言われていました。

無事にお腹に留まってくれた時には、長男を抱きしめ喜んだもので
す。

「この子も男の子だ」と確信しました。

その頃からこの子は、「たいき」と呼ばれています。

大きな山に、ドーンとそびえ立っている樹木のように、太陽に向かってたくまっすぐに
育てほしい。心も体も、大きく育てほしい。そういう思いで、大樹の父親が名づけま
した。

今、小学2年生。願った通り、小さい事にはあまりこだわらず、とてもダイナミックな性
格で、ハラハラさせられることも多くあります。

3人兄弟の真ん中で、ちょっと変わったところのある大樹

ゲームも、自転車も大好きで、毎日元気な大樹



色々な事に感動して、何でも一生けん命がんばる大樹
これからも、「大樹」という名前に、負けることなく、自分の気持ちをしっかり持って、
色々な事にたくさん挑戦して行って下さい。
いつも、お父さんとお母さんは応援しています。

北海道根室市の大樹さん

特別住民番号220

これは去年のクリスマス、おゆうぎ会の時で、ヘンゼルとグレーテルの
中の木のようにせいをした時の写真です。いっしょに送ります。
名前のお通り、大きく、大きく成長しています。
このことを子供に話したらとてもよろこんでいました。
一度大樹にあそびにつれて行ってあげたいです(夏はあついでしょ
うね。くわがた虫とかもいるんでしょうね)(母)



北海道札幌市の大樹さん

特別住民番号222

北海道に生まれ、北海道に育った私達両親に、待望の長男が産まれたのは
平成4年12月でした。寒さが日々に厳しくなろうとしていたころでした。
母の私が独身時代、デパートに勤めていたころです。
食品売場の販売の時のことです。私は乳製品がとても好きで、よく世界の
様々なナチュラルチーズを食べていたものです。



そのころ職場では「一対一品」コーナーが設置することになり、その売場担
当が私でした。数少なかつた、北海道の乳製品が各地の名を上げ、様々な形で販売さ
れるようになったころ、私の中で一番インパクトのあったチーズ、それが大樹町のナチ
ュラルチーズでした。

頭の中に残っていた名前が、この「大樹」という名前を字がそのまま、息子の名前にな
ったわけです。

北海道の四季のように、色々な色彩を持った社会、華やかな面もあれば、荒れるこ
とのある世の中に、どんな時でも立ち向かえるような精神力と肉体、そして大地にしっ
かり足のついた大きな人間になってほしいと望んでおります。

今年、やっと一年生になり学問と遊びに励んでます。

お友達も多く、毎日のように外で元気よく遊ぶ明るい男の子に成長しております。
(母)

北海道釧路市の大樹さん

特別住民番号223

私は、2人兄弟の次男として生まれました。出生時の体重は4千グラムあり、新生児としては大きい方でした。しかし、以後、余りおっぱい(母乳)を飲まず寝てばかりいた赤ん坊だったらしく、私より小さく生まれた子にすぐに負い越されたそうです。



小学校に入学した時、同じクラスに、やはり大樹という名前の子がおりその子は名前通り大きく、私とは頭一つ違う程でしたので、初めの頃、先生は「大きい大樹くん」「小さい大樹くん」と呼んでいました。

ちなみに、私の兄は、昌樹と言いますので、弟の私にも樹のつく名前をつけたかったそうです。それが、大きい赤ん坊だったので大樹、また心身共に大きい子に育ってほしいとの願いもあったのでしょう。

今では170センチ程ある人並み身長ですが、中学生までは常に最前列に並ぶチビ大樹でした。身長からすると、よく言われる名前負けした子どもだったかもしれませんが、心の方では決して名前負けしてはいなかったと自負しています。これは、後から親が気づいたらしいのですが、父親は繁と言いますので、兄弟と父の名前を合わせると「大繁盛」(だいはんじょう)という訳で、わが家は大変縁起がいいのです。

今まで名前の事など余り考えた事はなかったのですが、私も昨年父親になりました。女の子でしたが、名前をつける時には夫婦共々、あれこれ考え、出生届期限ぎりぎりまで迷っておりました。それだけ、親というのは、子どもに夢や希望、何より幸福を名前に託すものなのですね。

私は、今24才ですが、樹木だったらどの位の大きさの木なのでしょう。まだ、そう大きくはない木だと思いますが、樹木が樹齢を重ねて、大きく、太い樹々に育っていくように、私も良い年齢を重ねて、いつしか名前負けしない私なりの大樹に育っていきたいと思っております。

北海道滝川市の大樹さん

特別住民番号226

我家の「大樹」はこの夏で11才になりました。難産の末に、赤ちゃんとは言いがたい全身まっ白で産まれた男の子の名前を、最初、「大地」としようと思いました。ところが、旭川のおじ夫婦がお見舞いに来てくれて、「大地という名は、この子のいところにいる」と聞かされ、こまってしまいました。なぜなら、私はすでに初めての我子に母乳をやりながらおむつを換えながら「大ちゃん」「大ちゃん」と呼んできたものですから今さら他の呼び方ができません。「大」のつく名を考えましょうと主人と共に色々考えました。出生届の題出期限も迫ってきます。苦肉の策で、「大きな地」から「大きな樹」にしようということになりました。北海道の雄大な大地にしっかりと根を張り、豊かに葉を繁らせ、天にもとどかんとばかりの「大樹」のような子になりたいという願いも強く込めました。



「名は体を表す」のことばのように元気に大きな子に育っています。ちなみに、妹の名は「千花子」といいます。二人とも自然から名前をもらいました。人間も自然の中で生かされている生物にすぎないこと、その大いなる自然と共生するにはどうしたらいいのか、子供達と一緒に考えてゆきたいなと思っています。(母)

予定日より3日遅れで生まれたが、予想を超えた体重ではなかったの
で、あまり気にしていなかったのだが、見る人皆「うわっでかい」「大きいね
え…」「あそのこの子 大きいよ」と知らない人までも言っているのが聞こえ
てくる。それから私の頭の中は、大の字で一杯になってしまった。

「名付け」は、ダンナにまかせておいたのだが、待望の第一子、長男とあ
って迷いに迷っている様子で、沢山の名前が書かれた紙を「どうしよう」と
私に見せてくれた。私もチラッと目を通し、「考えてみるわ」と、とりあえず言っ
てはみた
が、沢山の名前の中で「大樹」に目が行ってしまう。どこから見ても大樹で目が止ま
る。ダメだ、ダメだ、大きいからって大の字付ければいいなんて……と思いながらも、
ダンナとの話し合いで結局「大樹(だいき)」と決まった。



そんな大樹も今でこそ、標準値で他の子に比べると細い位だが、1才前までは、見事
にでかく検診の度つけられるグラフは、いつも標準値枠に収まる事はなかった。

ところで、名前にどんな意味が込められてるのだろうと、ダンナに聞いてみたが、「お
しえられない」と今だにおしえては、もらえません。大樹が大きくなった時、本人にだけ
は話してあげるそうです。

いつかきっと、同じ職を共にし、会社を繁栄させる事を夢見て…そんな意味が込めら
れているのでは、と私は思いそうなるためにも健康に育ち色々な意味で大きくなって
ほしいと願います。(母)